

刑法模擬試験問題（2014年6月16日）

刑法においては、条文の解釈ならびに基本概念・理論の習得と、それに関連する重要判例の理解について、その基礎的学力を問うこととしている。

そのための問題形式としては、さしあたり次の3つの類型がありうるが、それら以外の出題形式を排除するものではない。

（Ⅰ）説明問題

基本概念・理論等について「～について説明しなさい」、「～について論じなさい」と問うもの。

例：「早すぎた結果実現について、関連する最高裁判例を含めて、説明しなさい」

（Ⅱ）事例問題

ごく単純化された事例問題についてその罪責等を問うもの。

例：

「以下の事例における、Xの罪責について、（1）、（2）のそれぞれの場合について論じなさい。

関連する判例についても言及すること

Aは本来B銀行のC支店にあるD名義の普通預金口座に100万円を振込むつもりであった。

しかし、Aは誤って、同支店のX名義の普通預金口座（振込前の残高5万円）に振込んでしまった。その直後、そのことに気づいたXは、

（1）B銀行のC支店窓口において、窓口の係員Eに対してAからの振込は誤振込であることを告げずに、Eに払い出しの書類を提出して100万円を引き出した。

（2）支店の係員の誰にも告げずに、支店備え付けのATMから100万円を引き出した。」

（Ⅲ）判例評釈

判例の一部ないし全部を示してその論評を求めるもの。